

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 I A	平成 2 2 年度	久留原 昌宏	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

本科目では、中学校までの国語学習の復習を含めながら日本語の「現代文・表現」についての授業を行い、高等専門学校第 1 学年の学生として、そして現代に生きる日本人として必要な日本語の基礎的な能力を、「現代文・表現」の分野を中心に身につけさせたい。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する。

前期

- 第 1 週 本授業の概容および学習内容の説明  
随 想 季 節 (内山 節) ①
- 第 2 週 随 想 季 節 (内山 節) ②
- 第 3 週 随 想 季 節 (内山 節) ③
- 第 4 週 表現の扉 絵や写真を文章にする  
小 説 清兵衛と瓢箪 (志賀直哉) ①
- 第 5 週 小 説 清兵衛と瓢箪 (志賀直哉) ②
- 第 6 週 小 説 清兵衛と瓢箪 (志賀直哉) ③
- 第 7 週 小 説 清兵衛と瓢箪 (志賀直哉) ④
- 第 8 週 前期中間試験
- 第 9 週 前期中間試験の反省  
表 現 話すこと・説得すること, スピーチをする
- 第 10 週 詩 わたしが一番きれいだったとき (茨木のり子) ①
- 第 11 週 詩 わたしが一番きれいだったとき (茨木のり子) ②
- 第 12 週 読書体験記・エッセイの書き方  
評 論 やっぱり (森本哲郎) ①
- 第 13 週 評 論 やっぱり (森本哲郎) ②
- 第 14 週 評 論 やっぱり (森本哲郎) ③
- 第 15 週 評 論 やっぱり (森本哲郎) ④

後期

- 第 1 週 前期末試験の反省  
詩 歌 折々のうた (大岡 信) ①
- 第 2 週 詩 歌 折々のうた (大岡 信) ②
- 第 3 週 詩 歌 作品 俳 句 ①
- 第 4 週 詩 歌 作品 俳 句 ②
- 第 5 週 評 論 クロウン問題と現代の幻想 (黒崎政男) ①
- 第 6 週 評 論 クロウン問題と現代の幻想 (黒崎政男) ②
- 第 7 週 評 論 クロウン問題と現代の幻想 (黒崎政男) ③  
表現の扉 要約文を書く
- 第 8 週 後期中間試験
- 第 9 週 後期中間試験の反省  
小 説 羅生門 (芥川龍之介) ①
- 第 10 週 小 説 羅生門 (芥川龍之介) ②
- 第 11 週 小 説 羅生門 (芥川龍之介) ③
- 第 12 週 小 説 羅生門 (芥川龍之介) ④
- 第 13 週 小 説 羅生門 (芥川龍之介) ⑤
- 第 14 週 表現の扉 手紙を書く
- 第 15 週 年間授業のまとめ, 授業反省アンケート

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語ⅠA（つづき）	平成22年度	久留原 昌宏	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 随想「季節」を読み、季節の変化と共に生きてきた人々の暮らしについて考えることができる。</li> <li>2. 小説「清兵衛と瓢箪」を読み、情景や心の動きを踏まえながら、一つのことに夢中になる少年の特性と、それを理解しない大人との衝突から得られるものを考えることができる。</li> <li>3. スピーチの実践を通して、「自分」を明確にとらえ、それを口頭で他の人に伝わるように表現することができる。</li> <li>4. 詩「わたしが一番きれいだったとき」を読み、詩が作り出す独自のイメージの世界をつかみ、終戦直後の時代背景を理解した上で、青年期の人間の生き方を考えることができる。</li> <li>5. 読書体験記・エッセイの書き方を学び、まとまった文章として完成させることができる。</li> <li>6. 評論「やっぱり」を読み、「やっぱり」という一つの言葉の意味を深く探ることによって、そこに表れた日本人の特質・同質社会の構造について考えることができる。</li> <li>7. 「折々のうた」による導入の後、近代俳句の主要な作品を読み、表現の工夫を味わい、情景をイメージすることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 評論「クローン問題と現代の幻想」を読み、クローン技術が巻き起こす現代の諸問題・モノが簡単にすげ替えられるという幻想について考えることができる。また内容について要約文の執筆を行うことができる。</li> <li>9. 小説「羅生門」を読み、時代背景を把握した上で、登場人物の心情の変化を場面に即して把握するとともに、〈作者〉のあり方にも目を向けることができる。</li> <li>10. 絵や写真を説明する文の執筆を通して、情報時代の今日に必要な、事実を客観的に報告する文章を書くことができる。</li> <li>11. 手紙文の執筆を通して、一定の形式に則りながら自己の内面を明確にとらえ、それを他の人に伝わるように表現することができる。</li> <li>12. 「四訂版 漢字とことば常用漢字アルファ」に基づき、漢字小テストを年間12回程度実施し、高専1年生として必要な漢字・語彙力を習得している。</li> <li>13. 12の実践を踏まえて、文部科学省認定の「漢字能力検定試験」「4級」以上の実力を有している。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>近現代の文学や日本文化に関する基礎的な知識、日本語で書かれた文章の読解力、および日本語による的確な表現能力を有している。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～13を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し、また「漢字能力検定試験」を受検させ、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。疑問が生じたら、その授業後直ちに質問すること。出された課題は期限を厳守し、必ず提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校卒業程度の国語の知識および能力を、身につけていることが必要である。</p>	
<p>[レポート等] 理解を助けるために随時演習課題を与え、試験時ごとにノートとともに提出させる。また夏期休業中の宿題として、外部コンクールに応募するための課題図書による読書体験記、または定められたテーマによるエッセイを執筆させ、提出させる。</p>	
<p>教科書：「国語総合 改訂版」（教育出版）          参考書：「クリアカラー国語便覧 第三版」（数研出版）、「四訂版 漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店）、          学校指定の「電子辞書」、「国語表現活動マニュアル」（明治書院）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 2回の中間試験・2回の定期試験の平均点を60%、小テスト・提出課題・口頭発表等の結果および漢字能力検定への取り組みを40%として評価する。</p> <p>ただし、前記中間・前期末・後期中間試験の評価で60点に達していない学生については再試験を行い、80点以上に達した場合に限り、試験成績を60点に置き換えて評価するものとする。学年末試験については再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件] 与えられた課題レポート等をすべて提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 I B	平成 2 2 年度	西岡将美	1	通年	履修単位 2	必修

[授業のねらい] 本科目は、高等専門学校での国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心に身につけさせるとともに、「古典」学習の意義（(1)当時の人々の考え方、生き方を知る。(2)古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおす。）を再確認する。具体的には、中学校までの古典学習の総復習を含めながら、高専生としてそして現代に生きる日本人として、必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上をねらいとする。

[授業の内容]	
<p>前期すべての内容は学習・教育目標（A）の&lt;視野&gt;&lt;意欲&gt;、及び（C）の&lt;発表&gt;に対応する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 古文入門および学習方法について （「古典学習の意義」としての「温故知新」）</p> <p>第2週 入門（説話）「児のそら寝」①（「宇治拾遺物語」） （歴史的仮名遣い、「いろは歌」を学ぶ）</p> <p>第3週 入門（説話）「児のそら寝」②（「宇治拾遺物語」） （文法の基礎学習①「品詞」の種類）</p> <p>第4週 入門（説話）「児のそら寝」③（「宇治拾遺物語」） （文法の基礎学習②古語辞典の引き方）</p> <p>第5週 入門（説話）「検非違使忠明」①（「今昔物語集」） （文法の基礎学習③用言の活用と活用形）</p> <p>第6週 入門（説話）「検非違使忠明」②（「今昔物語集」） （文法の基礎学習④用言の活用と活用形）</p> <p>第7週 入門（説話）「検非違使忠明」③（「今昔物語集」） （文法の基礎学習⑤「係り結びの法則」）</p> <p>第8週 前期中間試験</p> <p>第9週 前期中間試験の反省 （「かぐや姫の生い立ち」①（「竹取物語」） （文法の基礎学習⑥「形容詞」活用の種類）</p> <p>第10週 「かぐや姫の生い立ち」②（「竹取物語」） （文法の基礎学習⑦「形容動詞」活用の種類）</p> <p>第11週 「かぐや姫の生い立ち」③（「竹取物語」） （文法の基礎学習⑧「助動詞」の学習）</p> <p>第12週 「かぐや姫の生い立ち」④（「竹取物語」） （文法の基礎学習⑨「助動詞」の学習）</p> <p>第13週 「かぐや姫の生い立ち」⑤（「竹取物語」） （古典学習のしおり①「月と暦」の学習）</p> <p>第14週 漢文入門 訓読の基礎① （「訓点」の学習）</p> <p>第15週 漢文入門 訓読の基礎② （「書き下し文」の学習）</p>	<p>後期</p> <p>第1週 前期末試験の復習および漢文の「名言」① （訓読の知識①）</p> <p>第2週 漢文・「名言」② （訓読の基礎「訓点」の学習）</p> <p>第3週 漢文・「名言」③ （訓読の基礎「漢文の構造」）</p> <p>第4週 漢文・故事三編①「矛盾」 （訓読の基礎「再読文字」の学習）</p> <p>第5週 漢文・故事三編②「矛盾」 （訓読の基礎「置き字」「助字」の学習）</p> <p>第6週 漢文・故事三編③「借虎威」 （戦国時代諸国と遊説家の言行）</p> <p>第7週 漢文・故事三編④「借虎威」 （「戦国策」の文学史的価値）</p> <p>第8週 後期中間試験</p> <p>第9週 後期中間試験の反省</p> <p>第10週 随筆「丹波に、出雲という所あり」①（徒然草） （文法学習のまとめ①）</p> <p>第11週 随筆「丹波に、出雲という所あり」①（徒然草） （文法学習のまとめ②）</p> <p>第12週 随筆「丹波に、出雲という所あり」①（徒然草） （文法学習のまとめ③）</p> <p>第13週 漢文・論語①（学而） （孔子の「学問」に対する態度）</p> <p>第14週 漢文・論語②（為政） （孔子の「政治」に対する姿勢）</p> <p>第15週 年間授業のまとめ アンケート（感想）実施・提出</p>

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語ⅠB（つづき）	平成22年度	西岡将美	1	通年	履修単位2	必修

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <p>（古文入門）（「宇治拾遺物語」・「今昔物語」）</p> <p>1、音読を通して現代文との違いに注意しながら、古文を読むための基礎（歴史的仮名遣い・品詞の分類）を理解している。</p> <p>2、登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解できる。</p> <p>（古文・物語）（「竹取物語」）</p> <p>3、物語の展開をおさえながら、古典の内容を理解している。</p> <p>4、古典文法の基礎学習「用言」の学習内容を理解している。</p> <p>（漢文入門）（訓読の基礎学習・「格言」）</p> <p>5、漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎（訓点・書き下し文）を理解している。</p>	<p>後期</p> <p>（漢文・「成句」と「思想」）（「戦国諸家と「論語」」）</p> <p>6、名言と故事を読み、漢文の世界を理解できる。</p> <p>7、故事三篇の学習を通して、戦国時代諸国と遊説家の言行、および「戦国策」の文学史的価値を理解している。</p> <p>8、孔子の思想の特色や考えを理解している。</p> <p>9、語句の用法や語義に注意し、語彙を豊かにし、その上で、日本文化への影響と現代的意義について理解している。</p> <p>（古文・「徒然草」）</p> <p>10、三大随筆のそれぞれの文学的価値を理解している。</p> <p>11、兼好法師の人生観および「徒然草」の世界観を理解している。</p> <p>12、古典文法の基礎学習、「用言」および「助動詞」の学習内容を理解している。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>古典学習を通じて、当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり、加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」（前期1～5・後期6～12）のすべてを網羅した問題を2回の中間考査、2回の定期考査とレポート等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等する。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。また、ノート、課題は期限厳守の上提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>理解を深めるため、すべての教材に演習課題を与える。また、古典文法小テスト、古典名文の暗唱テスト、ノート提出等を課す。</p>	
<p>教科書：「国語総合 改訂版」（教育出版）</p> <p>参考書：「クリアカラー国語便覧」（数研出版）、「二訂版楽しく学べる基礎からの古典文法」（第一学習社）、本校指定の電子辞書、</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回試験の平均点を60%、課題（レポート、ノート提出）20%、小テスト、授業中の黒板での問題演習への取り組み等の結果を20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の4回試験ともに再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた演習課題を提出し、学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
世界史 I	平成 2 2 年度	小倉正昭	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

1. 人類の歴史文化遺産に親しみ、国際人としての教養を身につける.
2. 人類や社会の進歩発展の過程や諸文明の盛衰の原因を考察する.

[授業の内容]

すべての内容は、教育・学習目標 (A) <視野> に対応する.

前期

- 第 1 週 授業の概説—世界史概論  
 第 2 週 原始社会 1—人類の発展史, 原始宗教  
 第 3 週 原始社会 2—農耕牧畜の歴史的意義  
 第 4 週 オリエン特文明 1—古代メソポタミア史  
 第 5 週 オリエン特文明 2—アケメネス朝ペルシア帝国史  
 第 6 週 オリエン特文明 3—古代エジプトの歴史と文化  
 第 7 週 オリエン特文明 4—地中海東岸の諸国の歴史  
 第 8 週 中間試験  
 第 9 週 地中海文明 1 エーゲ文明, ポリスの成立  
 第 10 週 地中海文明 2 アテネとスパルタ  
 第 11 週 地中海文明 3—古代アテネの民主主義の成立史  
 第 12 週 地中海文明 4—古代ギリシアの盛衰  
 第 13 週 地中海文明 5—ヘレニズム時代史  
 第 14 週 地中海文明 6—ローマのイタリア統一, 帝政の成立  
 第 15 週 地中海文明 7—キリスト教の発展, ローマ帝国の没落

後期

- 第 1 週 インド文明 1—インダス文明, アーリア人の進入  
 第 2 週 インド文明 2—仏教・ジャイナ教の成立過程  
 第 3 週 インド文明 3—統一国家と仏教の発展と衰退  
 第 4 週 中国文明 1—中国史の特質問題, 黄河文明論  
 第 5 週 中国文明 2—殷周時代, 春秋戦国史  
 第 6 週 秦漢時代 1—古代中国思想史, 統一国家の成立  
 第 7 週 秦漢時代 2—漢帝国の成立史  
 第 8 週 中間試験  
 第 9 週 秦漢時代 3—専売制度の成立と歴史的意義  
 第 10 週 秦漢時代—秦漢時代の文化と東アジア  
 第 11 週 南北朝時代 1—三国時代と五胡十六国時代論,  
 第 12 週 南北朝時代 2—九品官人法と門閥貴族制の成立  
 第 13 週 隋等時代 1—隋・唐の中国統一、  
 第 14 週 隋唐時代 2—律令制度と唐の盛衰  
 第 15 週 隋唐時代 3—兩税法の歴史的意義と唐代の文化

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
世界史Ⅰ（つづき）	平成22年度	小倉正昭	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類の発展過程と原始人の宗教生活が理解できる。</li> <li>2. 農耕牧畜の開始により原始国家の成立過程が理解できる。</li> <li>3. アケメネス朝ペルシア史で専制国家の特徴が理解できる。</li> <li>4. エジプトの古代文化の西洋文化への影響が理解できる。</li> <li>5. エーゲ文明の内容とポリスの成立過程が理解できる。</li> <li>6. アテネとスパルタの違いが理解できる。</li> <li>7. 古代アテネの民主政治の成立の原因や特徴が理解できる。</li> <li>8. ローマのイタリア半島統一と地中海征服の意義が理解できる。</li> <li>9. ローマ帝政の成立とキリスト教の発展の関係が理解できる。</li> <li>10. ローマ帝国の衰退原因と中世への移行過程が理解できる。</li> </ol>	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アーリア人の侵入による政治支配の特徴が理解できる。</li> <li>2. 仏教の成立背景と発展と没落の理由が理解できる。</li> <li>3. 中国史の特質と殷周時代の特徴が理解できる。</li> <li>4. 諸子百家思想で中国思想の特質が理解できる。</li> <li>5. 秦漢帝国の成立過程と専制精度の歴史的意義が理解できる。</li> <li>6. 漢代の儒教の発展と中国の歴史書と特徴が理解できる。</li> <li>7. 中国中世の特質と北魏の中国支配の特徴が理解できる。</li> <li>8. 門閥貴族制度の成立と特徴が理解できる。</li> <li>9. 隋の中国統一の意義と律令制度の内容が理解できる。</li> <li>10. 中国史における両税法改革の歴史的意義が理解できる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>人類の発展過程と農耕牧畜の大切さ、古代のメソポタミア文明やエジプト文明の内容、古代ギリシアや古代ローマの歴史発展と没落過程、古代インドの歴史特徴と仏教の成立と発展、中国古代史の発展、秦漢帝国の成立や南北朝から唐代の貴族性時代の特徴が理解できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」前期1～11、後期1～12を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。重みは概ね均等とする。評価結果が60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 新聞、テレビニュース等も教材として随時利用する。また「世界史図説」は授業に必ず携帯すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 今日、世界で生起している歴史的イベントに関心を寄せておくこと。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>なし</p>	
<p>教科書：「新編 世界の歴史」北村正義編(学術図書出版社 )</p> <p>参考書：「総合新世界史図説」帝国書院編集部編(帝国書院)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験(期末試験)及び平常試験(中間試験)で評価を行う。前期中間、前期末、後期中間、学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし前期中間、前期末、後期中間の3回の試験について60点に達していない者には再試験を行い、60点を上限として再試験の成績で置き換える。学年末試験については再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
地理	平成22年度	鷲野雅好	1	通年	履修単位2	必修

[授業のねらい]

人間と自然環境・社会環境との関係を学習することにより、世界各地、国の現状を把握し、現代社会の諸問題に対する関心を高める。現代は一国だけでは政治、経済活動を行うことはできない。グローバル化した時代認識の上に立ち地球的課題の解決に少しでも役立てるようにする。

[授業の内容] 前後期の第1～15週までの内容は、学習・教育目標 (A) <視野>、<技術者倫理>に対応する。

前期

第1週	球面上の世界と地域構成(1)	
	私たちの星・地表面の捕らえ方	
第2週	球面上の世界と地域構成(2)	球面と平面の世界
第3週	球面上の世界と地域構成(3)	時差と生活
第4週	球面上の世界と地域構成(4)	国家と地域区分
第5週	結びつく現代世界(1)	世界を結ぶ交通
第6週	結びつく現代世界(2)	世界を一つに結ぶ通信
第7週	結びつく現代世界(2)	国際化する人々の移動
第8週	前期中間試験	
第9週	人間生活を取り巻く環境(1)	人々の生活と地形
第10週	人間生活を取り巻く環境(2)	人々の生活と地形
第11週	人間生活を取り巻く環境(1)	人々の生活と地形
第12週	人間生活を取り巻く環境(1)	人々の生活と地形
第13週	人間生活を取り巻く環境(1)	人々の生活と気候
第14週	人間生活を取り巻く環境(1)	人々の生活と気候
第15週	人間生活を取り巻く環境(1)	人々の生活と気候

後期

第1週	世界の諸地域の生活と文化	中国の生活・文化
第2週	〃	東南アジアの生活・文化
第3週	〃	インドの生活・文化
第4週	〃	ヨーロッパの生活・文化
第5週	〃	U. S. A. の生活・文化
第6週	〃	オーストラリアの生活・文化
第7週	地域的課題と私たち(1)	世界の人口問題
第8週	中間試験	
第9週	地域的課題と私たち(2)	世界の人口問題
第10週	〃	世界の食糧問題
第11週	〃	世界の都市・居住問題
第12週	〃	世界の資源・エネルギー問題
第13週	〃	世界の環境問題(1)
第14週	〃	世界の環境問題(2)
第15週	近隣諸国が取り組む課題と日本の役割	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
地理（つづき）	平成22年度	鷲野雅好	1	通年	履修単位2	必修

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 地球の大きさについて理解している。</p> <p>2. 地図についての基本的知識を習得している。</p>	<p>3. 地形・気候について理解している。</p> <p>4. 世界の主要国の自然・社会環境生活文化の特色が理解できる。</p> <p>5. 世界の諸問題について理解し考えることができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>地理的なものの見方、考え方を習得し、事実の把握だけにとどまらず、いろいろな事象を地理的に考察できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～5の確認を、2回の中間試験、2回の定期試験および課題で行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. 教科書・地図帳を用いて授業を進めるので、話をよく聞いて事象と事象の結びつきを理解することに努めることが肝要である。</p> <p>2. 板書を多くするので必ずノートをとること。</p> <p>3. 国名、県名、都市名など地誌の知識に乏しいと理解が困難になる。授業には必ず地図帳を持参すること。同時に普段の生活の中でも社会の動きに関心を持つこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で学んだ地理的分野の知識</p>	
<p>[レポート等]</p>	
<p>教科書：「新地理A1(帝国書院)」、「新詳高等地図」(帝国書院)</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価法および評価基準]</p> <p>4回の定期試験の結果と課題の提出、授業への取り組みにより総合判断をする。成績不振者については、再試験または課題を課す。再試験で60点以上を得点するか、または課題を提出した場合には60点を上限として定期試験の点数と置き換える。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題レポートを提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学A	平成22年度	篠原 雅史	1	通年	履修単位 4	必

[授業のねらい]

工学において多くの場面で利用される整式の計算とさまざまな関数、グラフについて学ぶ。前半は加減乗除や因数分解などの整式の計算を身に付け、その後、工学及び自然科学の多くの場面で利用される指数関数、対数関数、三角関数について学ぶ。関数については定義を理解するだけでなく、関数に付随する性質を理解し応用する力を習得する。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標（B）〈基礎〉に対応する。

前期

(数と式)

第1週 授業の概要、整式の加法と減法、整式の乗法・展開

第2週 因数分解の公式とたすきがけ

第3週 整式の除法と整式の約数・倍数

第4週 有理式の加減乗除、繁分数式

第5週 実数の分類、大小関係、絶対値、平方根と根号

第6週 恒等式、剰余の定理、因数定理

第7週 3次以上の式の因数分解、高次方程式、問題演習

第8週 前期中間試験

第9週 一次不等式、高次不等式、等式・不等式の証明

第10週 関数とグラフの平行移動、対称移動

第11週 グラフを用いた方程式・不等式の解法

絶対値を含む方程式・不等式、逆関数

(三角関数)

第12週 鋭角の三角関数、三角関数の基本的な公式

第13週 一般角と弧度法、一般角の三角関数

第14週 三角関数の関係

第15週 三角関数のグラフ（正弦、余弦、正接）、問題演習

後期

第1週 三角関数のグラフ（周期、伸縮、平行移動、漸近線）

第2週 加法定理、三角関数の合成

第3週 倍角の公式、半角の公式、積を和に直す公式、  
和を積に直す公式

第4週 三角関数を含む方程式、不等式

第5週 三角形の面積、正弦定理、余弦定理、ヘロンの公式  
(指数関数・対数関数)

第6週 指数の整数への拡張、指数法則、累乗根

第7週 指数の有理数への拡張、指数の大小関係

第8週 後期中間試験

第9週 指数関数、指数関数のグラフ、指数方程式・不等式

第10週 対数の定義と例、対数の性質、底の変換公式

第11週 対数関数とそのグラフ、対数の大小関係、  
対数方程式・不等式

第12週 常用対数と対数を利用した応用問題の演習  
(集合と命題)

第13週 集合、共通部分、和集合、ド・モルガンの法則

第14週 命題、対偶、必要条件・十分条件

第15週 背理法、問題演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学A (つづき)	平成22年度	篠原 雅史	1	通年	履修単位4	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」] (数と式)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整式の次数を理解し、加減乗除が計算できる。</li> <li>2. 整式の展開・因数分解ができる。</li> <li>3. 整式の約数・倍数の意味を理解している。</li> <li>4. 有理式の通分・加減乗除を理解している。</li> <li>5. 絶対値・平方根・根号を理解し計算が出来る。</li> <li>6. 剰余の定理・因数定理を理解し、これらの定理を用いて高次方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>7. 関数の平行移動・対称移動の意味を理解し、移動したグラフの方程式を求めることができる。</li> <li>8. 分数関数や無理関数のグラフを描くことができ、これを用いて方程式・不等式を解くことができる。</li> <li>9. 逆関数の定義と性質を理解し、逆関数の方程式を求めることやグラフを描くことができる。</li> </ol> <p>(三角関数)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. 鋭角の三角関数の定義を理解し、値を求めることができる。</li> <li>11. 弧度法と60分法の関係を理解し、扇形の弧長や面積を計算できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 一般角での三角関数の定義を理解し、与えられた角度に対してその値を求めることができる。</li> <li>13. 三角関数の関係式を理解し、利用することができる。</li> <li>14. 三角関数のグラフを描くことができる。</li> <li>15. 加法定理を理解し、それを利用することができる。</li> <li>16. 加法定理により他の公式を導くこと、利用することができる。</li> <li>17. 三角関数の合成ができる。</li> <li>18. 三角関数の方程式・不等式を解くことができる。</li> <li>19. 三角関数を利用して平面図形に関する問題を解決することができる。</li> <li>20. 正弦定理、余弦定理の公式を理解し、利用することができる。 (指数関数・対数関数)</li> <li>21. 拡張された指数の定義を理解し、指数法則を正しく使える。</li> <li>22. 対数の記号を理解し、対数計算を行うことができる。</li> <li>23. 指数・対数を用いたいろいろな計算ができると共に、指数関数・対数関数を実際の問題に応用できる。</li> </ol> <p>(集合と命題)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>24. 指数や対数を含む方程式・不等式を解くことができる。</li> <li>25. 集合と命題についての基本的な考え方を理解している。</li> <li>26. 背理法を用いて具体的な問題を証明できる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>整式の計算と様々な関数、集合に関する基礎的概念を理解し、計算できること、各関数に対応するグラフや関数の持つ性質を理解し、様々な問題を解決することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～26の習得の度合いを前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験及び小テスト、課題により評価する。各項目の重みは概ね均等とする。評価結果において百点法で60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>
<p>[注意事項] この科目は高専での工学学習全般における基礎となる必須の科目であり、積極的な取り組みを期待します。疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、十分に理解してから次の授業に臨むこと。授業中の演習時間だけでは十分な時間が確保できないので、授業以外の時間において教科書・問題集などの多くの問題を解くよう努力すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校で学習した全範囲。特に、数式の計算、因数分解、直線の方程式、三平方の定理を復習しておくこと。</p>	
<p>[レポート等] 長期休業中の宿題のほか、授業時にも適宜小テスト・課題を課す。</p>	
<p>教科書：高専の数学1 (森北出版) 問題集：新編高専の数学1 問題集 (森北出版)、ドリルと演習シリーズ 基礎数学 (TAMSプロジェクト4編集) 参考書：解法演習基礎数学 (森北出版)、チャート式 数学I+A, 数学II+B (数研出版) 白色チャートを推奨しますが、より意欲のある人は何色でも構いません。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の平均点を全体評価の80%とする。ただし、学年末試験を除く3回の試験については60点に達していない者に再試験や課題を課す。再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。残りの20%は随時実施する小テストや課題で評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学B	平成22年度	安富真一	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

最初に2次関数を学習する。この学習を通じて高専で展開されるさまざまな数学の雛形（ひながた）を理解する。次に平面図形を学習する。これも2年生以上で学習する線形代数の基礎であり、数学のみならず専門科目の共通の基礎となる重要な項目である。さらに個数の処理といて、有限個の対象の組み合わせ問題を扱うがこの考え方も数学に普遍的に存在する思考法であり将来の確率論の基礎となる。

[授業の内容]

全ての内容は、学習・教育目標（B）〈基礎〉に対応する。

前期

（二次関数）

- 第1週 座標平面と2次関数のグラフ
- 第2週 2次関数の標準型と平行移動
- 第3週 2次関数の最大、最小問題
- 第4週 2次関数に関する演習
- 第5週 2次方程式の解の公式
- 第6週 複素数について
- 第7週 2次方程式の解と複素数
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 判別式
- 第10週 解と係数の関係
- 第11週 因数分解と方程式
- 第12週 2次関数のグラフと判別式
- 第13週 判別式の応用および不等式
- 第14週 2次関数のグラフと2次不等式
- 第15週 連立不等式

後期

（平面図形）

- 第1週 平面上の座標と2点間の距離
  - 第2週 直線の内分と外分
  - 第3週 直線の方程式
  - 第4週 平面上の座標に関する演習
  - 第5週 円の方程式について
  - 第6週 円の方程式と直線
  - 第7週 楕円について
  - 第8週 後期中間試験
  - 第9週 双曲線と放物線について
  - 第10週 不等式と領域（1）
  - 第11週 不等式と領域（2）
- （場合の数）
- 第12週 和と積の法則と順列
  - 第14週 組み合わせ
  - 第15週 2項展開

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学B (つづき)	平成22年度	安富真一	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2次関数のグラフの特徴が理解でき、2次関数の標準型からその形を描くことができる。</li> <li>2次関数の標準型とグラフの平行移動が理解でき、2次式を2次関数の標準型に変形することができる。</li> <li>2次方程式の解の公式を導くことができ、実際の問題に適用することができる。</li> <li>複素数についてその定義を理解し、加減乗除の演算を行うことができる。</li> <li>解と係数の関係が理解できる。</li> <li>判別式と解の関係および2次関数と判別式の関係が理解できる。</li> <li>1次不等式、2次不等式を解くことができる。</li> <li>平面上の2点間の距離の公式が理解できる。</li> <li>直線の内分と外分が理解でき、実際に求めることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 円の方程式の標準型の意味が理解でき、標準型に変換することができる。</li> <li>11. 楕円、双曲線、放物線についてそれらの定義とグラフの特徴を理解し、また簡単な場合はそのグラフを描くことができる。</li> <li>12. 不等式が示す領域を理解し、簡単な場合はその領域を図示することができる。</li> <li>13. 順列と組み合わせの基本的な概念を理解でき、簡単な場合に計算することができる。</li> <li>14. 2項展開の公式を理解でき、簡単な場合に計算することができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>2次関数、平面図形、個数の処理について主要な概念、公式について理解し、実際に計算ができること。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] この科目は高専での工学学習全般における基礎となる必須の科目であり、積極的な取り組みを期待します。疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、十分に理解してから次の授業に臨むこと。授業中の演習時間だけでは十分な時間が確保できないので、授業以外の時間において教科書・問題集などの多くの問題を解くよう努力すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学における数学全般。</p>	
<p>[レポート等] 適宜レポートが課すので、期限を守って提出のこと。</p>	
<p>教科書：高専の数学1 (森北出版)  問題集：新編高専の数学1 問題集 (森北出版)，ドリルと演習シリーズ 基礎数学 (TAMSプロジェクト4 編集)  参考書：解法演習基礎数学 (森北出版)，チャート式 数学I+A, 数学II+B (数研出版) 白色チャートを推奨しますが、より意欲のある人は何色でも構いません。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間試験定期試験の平均を全体評価の70パーセントとする。課題・小テストの評価を残りの30パーセントとする。前期中間・前期末・後期中間において60点に達していない場合は再試験を行いその結果を前述の成績と置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理	平成22年度	丹波 之宏	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

物理は、自然の仕組みを調べる学問の基礎として大切であるが、またその応用として専門技術の理解にも必要なものである。中学校の理科では、自然の仕組みを言葉の説明を通して理解してきた。この授業では、自然を理解するときに数式を使い計算を通して行うという物理学本来の方法を学ぶ。この方法は、専門科目の理解の方法とも一致するので早くなれて欲しい。

具体的には、物理学の中でも、基礎となる力学の「速度」、「加速度」からはじめ「運動の法則」、「運動量」、「力学的エネルギー」等を学ぶ。1年生では、数学の進捗の関係から運動は、一直線の運動のみを学ぶ。平面上の運動については、2年生になってから学ぶ。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標（B）＜基礎＞に相当する。

前期

- 第2部 運動と力 第1章 物体の運動
- 第1週 授業内容の説明, 有効数字の説明
  - 第2週 速度
  - 第3週 速度
  - 第4週 加速度
  - 第5週 加速度
  - 第6週 落体の運動
  - 第7週 落体の運動
  - 第8週 前期中間試験
- 第2章 力と運動
- 第9週 力
  - 第10週 力, 三角比
  - 第11週 力
  - 第12週 運動の法則
  - 第13週 運動の法則
  - 第14週 運動方程式の応用
  - 第15週 運動方程式の応用

後期

- 第1週 運動方程式の応用
  - 第2週 運動方程式の応用
  - 第3週 圧力と浮力
  - 第4週 圧力と浮力
  - 第5週 大きさのある物体にはたらく力
  - 第6週 大きさのある物体にはたらく力
  - 第7週 大きさのある物体にはたらく力
  - 第8週 後期中間試験
- 第3部 エネルギー 第1章 仕事とエネルギー
- 第9週 仕事
  - 第10週 仕事
  - 第11週 運動エネルギー
  - 第12週 位置エネルギー
  - 第13週 位置エネルギー
  - 第14週 力学的エネルギー
  - 第15週 力学的エネルギー

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理（つづき）	平成22年度	丹波 之宏	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 四則計算に関する有効数字の取り扱いができる。</li> <li>2. 変位，速度，加速度の意味を理解し，それらを計算できる。</li> <li>3. 落体の運動の式を使ってその運動の計算ができる。</li> <li>4. 力を理解し，その計算ができる。</li> <li>5. 運動方程式を理解し，計算ができる。</li> <li>6. 運動方程式を応用し，色々な運動の計算ができる。</li> <li>7. 摩擦を理解し，計算ができる。</li> <li>8. 圧力と浮力を理解し，それらの計算ができる。</li> <li>9. 力のモーメントを理解し，計算ができる。</li> <li>10. 重心の計算ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1. 仕事を理解し，計算ができる。</li> <li>1 2. 運動エネルギーを理解し，計算ができる。</li> <li>1 3. 位置エネルギーを理解し，計算ができる。</li> <li>1 4. 力学的エネルギー保存の法則を理解し，その考え方を使った計算ができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>力学に必要な物理量の考え方に関する用語を理解し，必要な計算ができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1から14にあげた事柄に関した問題を2回の中間試験，2回の定期試験で出題し，目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。ただし，基本概念及び基本法則に関する計算は繰り返し用いられるので，必然的にその重みは大きくなる。試験問題のレベルは高等学校程度である。評価結果が60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>“勉強の仕方”</p> <p>基本的に，教科書にしたがって授業は行われる。授業が終わったら，自宅で，教科書の内容を復習する。問題集の習った範囲の例題，問題等を解いて理解を確実にするとよい。余裕があったら，ステップ3の問題にも挑戦してみる。</p> <p>物理は，自分で考え理解することが大切である。すぐ答えを見ないで，自分の力で考え解いてみる力を養うように努力する。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>特に，なし。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>夏休みに宿題，レポートの提出を求める予定。</p>	
<p>教科書：高等学校「物理Ⅰ」改訂版 兵頭申一他編（啓林館）</p> <p>参考書：問題集センサー「物理Ⅰ+Ⅱ」（新課程用）高校物理研究会，啓林館編集部編（啓林館）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期期末・後期中間・学年末の4回の試験またはそれに代わる再試験（上限60点，各試験につき1回限りで，学年末は行わない予定）の結果を合計して，それを4で割ったものを90%、宿題・レポートを10%とし学業成績の総合評価とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
化学	平成22年度	山崎 賢二	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

本科目の学習を通し、化学に関する基本的な事項、及び物質の構成や性質、その理論的な扱いを理解し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。またこれらを身に付けることで、高学年における実践的技術者教育の基礎をつくる。

[授業の内容]

前期

◆授業の概要説明

第1週 シラバスを用いて授業の概要、進め方を説明する。

化学とその役割 学習・教育目標(A)〈視野〉

〈技術者倫理〉に相当する。

以下すべての内容は、学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。

◆物質の構成

第2週 混合物と純物質

第3週 単体・化合物・元素

第4週 原子の構造と電子配置

第5週 イオンの生成とイオンからなる物質

第6週 元素の周期表

第7週 粒子の結びつきと物質の性質

第8週 前期中間試験

第9週 原子量、分子量、式量

第10週 物質量

第11週 溶液の濃度

第12週 化学反応式とイオン反応式

第13週 化学変化の量的関係

◆物質の変化

第14週 反応熱と熱化学方程式

第15週 ヘスの法則

後期

すべての内容は、学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。

第1週 酸と塩基

第2週 水の電離とpH

第3週 酸・塩基の中和、中和滴定

第4週 酸化と還元

第5週 酸化数

第6週 酸化剤と還元剤

第7週 金属の酸化還元反応

第8週 後期中間試験

第9週 電池

第10週 電気分解

◆無機物質

第11週 周期表と元素の性質、水素と希ガス

第12週 ハロゲンとその化合物

第13週 酸素・硫黄とその化合物

第14週 窒素・リンとその化合物

第15週 炭素・ケイ素とその化合物

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
化学(つづき)	平成22年度	山崎 賢二	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>◆化学とその役割 学習・教育目標(A)〈視野〉〈技術者倫理〉に相当する。</p> <p>1. 化学の発展, 20世紀の化学がもたらした代表的な功績と問題点を把握している。</p> <p>2. 21世紀の代表的な化学の役割を理解している。</p> <p>以下すべての内容は, 学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。</p> <p>◆物質の構成</p> <p>3. 混合物, 純物質, 単体, 化合物の分類について理解できる。</p> <p>4. 原子の構造や, 原子の電子配置について理解できる。</p> <p>5. イオンの生成とイオンからなる物質について理解できる。</p> <p>6. 元素の性質と周期表との関係について理解できる。</p> <p>7. イオン結合, 共有結合, 金属結合について理解できる。</p> <p>8. 分子量, 式量を計算できる。</p>	<p>9. 物質量(モル)の概念について理解できる。</p> <p>10. 溶液の濃度を計算できる。</p> <p>11. 化学変化の量的関係について, 物質量を用いて計算できる。</p> <p>◆物質の変化</p> <p>12. 熱化学方程式, ヘスの法則について理解でき, 基本的な各種反応における反応熱を計算できる。</p> <p>13. 酸と塩基の性質, 電離度について理解できる。</p> <p>14. 水素イオン濃度, 水素イオン指数について理解できる。</p> <p>15. 中和反応, 中和滴定曲線について理解できる。</p> <p>16. 酸化還元反応を理解し, 酸化還元反応式をつくることができる。</p> <p>17. 電池の仕組み, 電気分解反応について理解できる。</p> <p>◆無機物質</p> <p>18. 代表的な非金属元素とその化合物の性質について理解できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>化学Iに関する基本的事項を理解し, 化学の役割, 物質の構成, 物質の変化, 無機物質に関する知識, 原理や用語を理解し, 関連する問題を解くことができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～18に関して2回の中間試験, 2回の定期試験で出題し, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>授業中に演習問題を解くので電卓は必要である。また試験時においても電卓の持ち込みは可である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校での数学, 理科, 及び本校における数学に関する基礎知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>限られた授業時間の中で取り組む練習問題だけではその量は足りない。家庭での学習状況をアピールする手段の一つとして, 「トライアルノート化学I」に取り組み, 前期中間, 前期末, 後期中間, 学年末の4回の試験時に提出することを薦める。</p>	
<p>教科書: 「高等学校 化学I 改訂版」 齋藤烈・山本隆一編 (新興出版社啓林館)</p> <p>参考書: 「トライアルノート化学I」 数研出版編集部編 (数研出版)</p> <p>「スクエア最新図説化学」 佐野博敏 他監修 (第一学習社)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間, 前期末, 後期中間, 学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし, 前期中間, 前期末, 後期中間の3回の試験のそれぞれについて60点に達していない者には再試験を課し, 再試験の成績が再試験の対象となった試験の成績を上回った場合には, 60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。その他, 授業中における質疑応答回数, 演習問題への取り組み, 「トライアルノート化学I」の学習状況等を評価して加味する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I A	平成 2 2 年度	松尾 江津子 (Michael Lawson)	1	通年	履修単位 4	必

【授業のねらい】

日本人教員を中心とした授業において、英語の基礎文法知識を習得するとともに、外国人教員による授業において、その知識を実際のコミュニケーションの場で活用することによって、より実際に即した英語運用能力を身に付けることを目指す。

【授業の内容】

下記授業内容はすべて学科学習教育目標 (A) <視野> <意欲> および (C) <英語> の項目に相当する。

【前期】

- 第 1 週 授業の概要、効果的な学習の進め方など  
英語のしくみ
- 第 2 週 英語の語順 (1) 文型 (SV, SVO)  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 3 週 英語の語順 (2) 文型 (SVOO, SVC, SVOC)  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 4 週 さまざまな文, 時制 (1) 現在形  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 5 週 時制 (2) 過去形, 未来表現  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 6 週 完了形 (1) 現在完了形  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 7 週 完了形 (2) 過去完了形, 未来完了形  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 8 週 前期中間試験
- 第 9 週 助動詞 (1) 助動詞の役割  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 10 週 助動詞 (2) さまざまな助動詞の用法  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 11 週 助動詞 (3) 過去のことに関する表現  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 12 週 態 (1) 受動態の基本的用法  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 13 週 態 (2) 受動態の発展的用法  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 14 週 注意すべき受動態の表現  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)
- 第 15 週 否定表現  
コミュニケーション演習 (外国人教員) (別紙)

【後期】

- 第 1 週 定期試験の復習、後期授業の概要  
不定詞 (1) to 不定詞の名詞的用法, 形容詞的用法
- 第 2 週 不定詞 (2) to 不定詞の副詞的用法, 意味上の主語  
不定詞 (3) 使役動詞・知覚動詞と動詞の原形
- 第 3 週 不定詞 (4) さまざまな形の不定詞  
不定詞の注意すべき用法, 重要表現
- 第 4 週 動名詞 動名詞の基本的用法, 意味上の主語  
様々な形の動名詞, 重要表現
- 第 5 週 動名詞と不定詞の使い分け  
分詞 (1) 分詞の基本的用法
- 第 6 週 分詞 (2) 使役動詞・知覚動詞と分詞  
分詞 (3) 分詞構文の基本
- 第 7 週 さまざまな分詞構文  
疑問文, 感嘆文
- 第 8 週 後期中間試験
- 第 9 週 関係詞 (1) 関係代名詞  
関係詞 (2) 関係代名詞と前置詞
- 第 10 週 関係詞 (3) 関係副詞  
複合関係詞
- 第 11 週 比較 (1) 原級, 比較級を使う表現  
比較 (2) 最上級を使う表現
- 第 12 週 比較に関連する重要表現  
仮定法 (1) 仮定法過去, 仮定法過去完了
- 第 13 週 仮定法 (2) 仮定法を使う表現  
時制の一致と話法
- 第 14 週 名詞中心の表現、無生物主語、強調構文  
代名詞, 前置詞
- 第 15 週 接続詞  
まとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I A	平成 2 2 年度	松尾 江津子 (Michael Lawson)	1	通年	履修単位 4	必
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>&lt;英語運用能力&gt;</p> <p>1. 「授業内容」に示した教科書の英文の内容が理解できる。</p> <p>2. 英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる。</p> <p>3. 教科書の英文に使用されている英単語・熟語の意味を理解し、使用できる。</p> <p>4. 自分で書いた短い英作文を内容が伝わる程度に発表できる。</p> <p>&lt;文法に関する理解&gt;</p> <p>■ 前期第 1 週から第 7 週</p> <p>5. 基本となる英語の文型 (S-V / S-V-C / S-V-O / S-V-O-O / S-V-O-C) が理解できる。</p> <p>6. 現在時制, 過去時制の用法を理解することができる。</p> <p>7. 進行形の基本が理解できる。</p> <p>8. 基本的な未来表現が理解できる。</p> <p>9. 完了形の基本が理解できる。</p> <p>■ 前期第 9 週から第 1 5 週。</p> <p>1 0. 基本的な助動詞の用法が理解できる。</p> <p>1 1. 英語の態 (能動態, 受動態) に関する事項を理解できる。</p> <p>1 2. 基本的な否定表現が理解できる。</p>		<p>■ 後期第 1 週から第 7 週</p> <p>1 3. 不定詞の基本的用法が理解できる。</p> <p>1 4. 動名詞の基本的用法が理解できる。</p> <p>1 5. 現在分詞, 過去分詞の用法が理解できる。</p> <p>1 6. 基本的な分詞構文が理解できる。</p> <p>1 7. 様々な疑問文と感嘆文を理解できる。</p> <p>■ 後期第 9 週から第 1 5 週</p> <p>1 8. 関係代名詞・関係副詞の限定用法が理解できる。</p> <p>1 9. 関係代名詞・関係副詞の継続用法が理解できる。</p> <p>2 0. 複合関係詞の用法が理解できる。</p> <p>2 1. 原級, 比較級, 最上級を使った比較表現が理解できる。</p> <p>2 2. 仮定法過去が理解できる。</p> <p>2 3. 仮定法過去完了が理解できる。</p> <p>2 4. 時制の一致を理解できる。</p> <p>2 5. 語法を理解できる。</p> <p>2 6. 名詞中心の表現、無生物主語、強調構文が理解できる。</p> <p>2 7. 基本的な代名詞の用法が理解できる。</p> <p>2 8. 基本的な前置詞の用法が理解できる。</p> <p>2 9. 基本的な接続詞の用法が理解できる。</p> <p>&lt;語彙力&gt;</p> <p>3 0. 3 0 0 0 語レベルの英語語彙の意味が理解できる。</p>				
<p>[達成目標]</p> <p>基本的な文法を理解し, 英語を「読む・書く・話す」ことに活用することができる。</p>		<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～29を網羅した問題を2回の中間試験, 2回の定期試験で出題し, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。「知識・能力」30については, オンライン学習システムを利用した学習結果および筆記テストによって評価する。</p>				
<p>[注意事項] 電子辞書を必ず授業に持参すること。計画的に予習復習を行い, 積極的に授業に参加すること。</p>						
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校で学習した英単語, 英文法の知識</p>						
<p>[レポート等] 授業内容と関連する小テスト, および課題を与える。</p>						
<p>教科書: 高校総合英語 Harvest (桐原書店)</p> <p>Harvest English Grammar in 25 Lessons (桐原書店)</p> <p>理工系学生のための必修英単語 3 3 0 0 (成美堂)</p>						
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間試験, 定期試験の結果を5割, 授業中に行う小テスト及び提出課題の結果を4割, オンライン学習システムを利用した語彙学習の結果を1割としてその合計で評価する。ただし, 前期については外国人教員の授業における成績(別紙シラバス参照)を50%, 日本人教員による授業の成績を50%の割合で総合的に評価する。前期中間, 前期末, 後期中間のそれぞれの試験について60点に達していない者には再試験を課し, 再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には, 60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>						



授業科目名	科目コード	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I A	平成 2 2 年度	Mike Lawson (松尾 江津子)	1	通年のうちの 前期のみ	履修単位 4	必

[授業の目標]

Students will learn: 1) that there is a five-step process to creating an English oral presentation- selecting a topic, brainstorming, creating an outline, creating a PowerPoint presentation, and practicing the PowerPoint presentation; 2) students will learn how to take a presentation topic and brainstorm on that topic; and, 3) students will learn to create an outline for an English oral presentation based on the brainstorming technique.

[授業の内容]

The following content conforms to the learning and educational goals: (A) <Perspective> [JABEE Standard 1(1)(a)], and (C) <English> [JABEE Standard 1(1)f].

Week:

- 1: Introduce class requirements
- 2: Unit 1-A new club member: Presentation exercises from the text.
- 3: Unit 1- A new club member: Presentation exercises from the text.
- 4: Unit 2-A favorite place: Presentation exercises from the text.
- 5: Unit 2- A favorite place: Presentation exercises from the text.
- 6: Unit 3-A prized possession: Presentation exercises from the text.
- 7: Review for Midterm exam
- 8: Midterm Exam: This exam tests objective "1" and "2" listed in the syllabus.

Week:

- 9: Discuss Midterm exam results
- 10: Unit 4-A memorable experience: Presentation exercises from the text.
- 11: Unit 4- A memorable experience: Presentation exercises from the text.
- 12: Unit 5-Show me how: Presentation exercises from the text.
- 13: Unit 5- Show me how: Presentation exercises from the text.
- 14: Unit 6-Movie magic: Presentation exercises from the text.
- 15: Review for Final exam

[到達目標] (この授業で習得すべき知識・能力)

1. Students will gain a nominal understanding of a 5-step English oral presentation process and a practical understanding of brainstorming and outline creation.

2. Students will develop their understanding of the 5-step English oral presentation process, brainstorming, and outline creation through classroom work and textbook work. Textbook concepts will include: "A new club member", "A favorite place", "A prized possession", "A memorable experience", "Show me how", and "Movie magic".

[この授業の達成目標]

Students can understand a 5-step process for creating and giving an English oral presentation, and learn how to brainstorm a topic and create an outline based on that brainstorming.

[達成目標の評価方法と基準]

Students' understanding of the 5-step English oral presentation process, brainstorming, and outline creation, will be evaluated through the use of two exams (a midterm and exam and a final exam). Students will have attained the goals provided that they have earned 60% of the total points possible for this course.

[注意事項]

1. Please visit my website (<http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/gen1/Lawson/>) for information related to this class.
2. Please visit ITO Akira's Internet website "English-Muscle" at <http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/engcom/> for fun English-learning activities.
3. You may contact me at the following address: [lawson@gen1.suzuka-ct.ac.jp](mailto:lawson@gen1.suzuka-ct.ac.jp).

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

An understanding of basic English syntax and grammar.

[レポート等] The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study time outside of the classroom.

教科書: 1. **Text:** Gershon, Steven. *Present Yourself 1 Experiences*. Cambridge University Press 2008  
参考書: 2. Material as distributed in class.

[単位修得要件] Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.

[学業成績の評価方法] Method of Evaluation: 50% Midterm Exam, 50% Final Exam.

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I B	平成 2 2 年度	出口 芳孝	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

中学で学習した知識・技能を活用して、幅広い話題について読んだり、聞いたりする能力を養うとともに、異文化に対する理解を深め、コミュニケーションの手段として積極的に外国語を活用しようとする態度を育てる。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標 (A) <視野> <意欲> 及び (C) <英語> に対応する。

前期

第 1 週 ガイダンス： 高専英語の学習について

第 2 週 Lesson 1 Smile (1)

第 3 週 Lesson 1 Smile (2)

第 4 週 Lesson 2 Fast Food (1)

第 5 週 Lesson 2 Fast Food (2)

第 6 週 F1 How About Buying Something to Eat ?

第 7 週 Lesson 3 Art Is Life (1)

第 8 週 Lesson 3 Art Is Life (2), 総復習

第 9 週 中間試験

第 10 週 ガイダンス： 試験の反省、今後の学習方法

第 11 週 Lesson 3 Art Is Life (3)

第 12 週 Lesson 4 Animal Therapy (1)

第 13 週 Lesson 4 Animal Therapy (2)

第 14 週 Lesson 4 Animal Therapy (3)

第 15 週 F2 Could You Lend Me Your Notebook?

後期

第 1 週 Lesson 5 Dreams Are for Everyone (1)

第 2 週 Lesson 5 Dreams Are for Everyone (2)

第 3 週 Lesson 5 Dreams Are for Everyone (3)

第 4 週 Lesson 6 Water of Life (1)

第 5 週 Lesson 6 Water of Life (2)

第 6 週 Lesson 6 Water of Life (3)

第 7 週 F3 I' m a Great Shamisen Fan

第 8 週 Lesson 7 The Case of the Wrong Bag (1), 総復習

第 9 週 中間試験

第 10 週 Lesson 7 The Case of the Wrong Bag (1)

第 11 週 Lesson 7 The Case of the Wrong Bag (2)

第 12 週 Lesson 7 The Case of the Wrong Bag (3)

第 13 週 Lesson 8 The Secret of the Arch (1)

第 14 週 Lesson 8 The Secret of the Arch (2)

第 15 週 Lesson 8 The Secret of the Arch (3)

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I B (つづき)	平成 2 2 年度	出口 芳孝	1	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>&lt;英語運用能力&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「授業内容」に示した教科書の英文の内容が理解できる。</li> <li>英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる。</li> <li>教科書の英文に使用されている英単語・熟語の意味を理解し、使用できる。</li> <li>英文を内容が伝わる程度に朗読できる。</li> </ol> <p>&lt;文法に関する理解&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>以下の事項が理解できる <ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 1 時制(現在, 過去), 進行形が理解できる。</li> <li>Lesson 2 名詞的要素(主語・目的語)</li> <li>Lesson 3 受動態, 目的節, 不定詞副詞用法</li> <li>Lesson 4 第 4・5 文型, 不定詞名詞用法</li> <li>Lesson 5 比較, 完了, 形容詞的要素</li> </ul> </li> </ol>	<p>Lesson 6 関係代名詞, 過去完了</p> <p>Lesson 7 関係副詞, 形式主語</p> <p>Lesson 8 助動詞+受動態, 関係詞 what, why</p> <p>&lt;語彙力&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2000 語レベルの英語語彙の意味が理解できる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>中学で学習した知識・技能を活用して, 幅広い話題について読んだり, 聞いたりする能力を身につけ, 異文化理解を通じて, コミュニケーションの手段として外国語の重要性を理解できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1, 3, 5, 6 を網羅した事項を定期試験及び小テスト・課題等で, 2, 4 は授業だけで評価し, 目標の達成度を確認する。1, 3, 5 の重みは概ね均等であり, 4 回の定期試験結果で 7 割, 平常の小テスト・課題で 1 割, 2, 4 の重みは概ね均等で, 授業中の小テスト等の結果で 1 割, 6 は小テスト課題等で 1 割, とした総合評価において 6 割以上を取得した場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>毎回の授業分の予習をしたうえで, 積極的に授業に参加すること。授業には必ず英和辞典(電子辞書でも可)を用意すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学で学習した英単語, 熟語, 英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す。</p>	
<p>教科書: Big Dipper: ENGLISH COURSE I(Basic Note・Work Book 含む)(数研出版),</p> <p>理工系学生のための必修英単語 3 3 0 0 (成美堂)</p> <p>参考書: 高校総合英語 Harvest (桐原書店)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を 70%, 平常時の小テストや課題の評価を 30%として, それぞれの学期毎に評価し, これらの平均値を最終評価とする。但し, 学年末試験を除く 3 回の試験について 60 点に達していない学生については再試験を行う場合があり, その場合には再試験の結果を 60 点を上限としてそれぞれの試験の成績に置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（保健）	平成22年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

[授業のねらい]

「保健」の授業では、現代社会の健康、生涯を通じる健康、集団の生活における健康についての理解を深め、健康の保持増進を図り、集団の健康を高めることに寄与する能力と態度を養う。

[授業の内容]

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 授業内容説明
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 スポーツテスト
- 第4週 食事と健康（糖質）
- 第5週 食事と健康（脂質）
- 第6週 食事と健康（蛋白質）
- 第7週 食事と健康（ビタミン・ミネラル）
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 喫煙と健康
- 第10週 飲酒と健康
- 第11週 薬物乱用
- 第12週 医薬品と健康
- 第13週 生涯を通じる健康と家庭生活
- 第14週 免疫機能の働き
- 第15週 95分水泳のテスト

後期

- 第1週 思春期と性
- 第2週 性機能とその成熟
- 第3週 受精・妊娠
- 第4週 出産の生理
- 第5週 結婚と家族計画
- 第6週 性感染症
- 第7週 エイズ
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 救急法の基礎知識
- 第10週 気道の確保と人工呼吸
- 第11週 心肺蘇生法
- 第12週 出血の処置
- 第13週 急病人の応急手当
- 第14週 運動中に起こりやすいけがの処置
- 第15週 救急法のまとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（保健）（つづき）	平成22年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事ではどの様なものを食べるのかということと同様に、どのような食べ方をするのが健康につながるかを理解している。</li> <li>2. 心身に悪影響を及ぼす喫煙、飲酒、薬物乱用に対し正しい知識を身につけている。</li> <li>3. 思春期に強く現れる心のゆれや性意識、性的欲求による不安や変化は自立や自律へ向かう成長期であることを理解している。</li> <li>4. 男性女性の性機能の仕組みと働きについて理解している。</li> <li>5. 受精、妊娠、出産のメカニズムを理解し、相手の立場に立って性を考えることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 家族計画の意義、避妊法、人工妊娠中絶について正しい知識を身につけている。</li> <li>7. 性感染症の予防対策を理解している。</li> <li>8. 突然の事故や急な発病の際の適切な対応の意義と原則について理解している。</li> <li>9. 心肺蘇生法の原理と方法について理解している。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>授業で学んだ基本的事項を理解し、自分の日常生活とを照らし合わせて考えることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～9を網羅した問題を2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。武道、体育実技と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 95分の中で保健と実技を行うので、保健に費やす時間は1回あたり40分程度である。但し、ビデオ教材を使うときなどは、95分間保健を行う場合がある。</li> <li>2. 実技の進行状況によって内容と時間配分が変わることがある。</li> </ol>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校で学んだ保健の内容及び一般常識</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>特になし</p>	
<p>教科書：「運動と健康の科学」</p> <p>参考書：「図説 新高等保健」</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>95分で保健と実技を行うため、保健の試験は全期末と学年末の2回のみ実施する。保健単独で試験を行うが、保健体育全般としての評価は、保健25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価する。その中には平常の学習に取り組む姿勢・意欲等も評価の対象として含まれる。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記評価方法により60点以上取得すること</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（実技）	平成22年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

[授業のねらい]

「体育実技」では、成長期であるこの時期に運動を通して基礎体力を高め、心身の調和的発達を促すとともに、生涯を通じて運動を楽しむ、健康な生活を営む態度を育てる。

[授業の内容]

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 授業内容説明
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 スポーツテスト
- 第4週 スポーツテスト
- 第5週 バasketボール（基本）
- 第6週 バasketボール（シュート、パス）
- 第7週 バasketボール（攻守の動き）
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 バasketボール（試合）
- 第10週 バasketボール（試合）
- 第11週 バasketボール実技試験
- 第12週 水泳（基礎練習）
- 第13週 水泳（クロール）
- 第14週 水泳（平泳ぎ）
- 第15週 水泳実技試験

後期

- 第1週 体育祭の種目練習
- 第2週 走高跳（跳躍練習）
- 第3週 走高跳（跳躍練習）
- 第4週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第5週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第6週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第7週 100m走計測及びサッカー（試合）
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 卓球（基本）
- 第10週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第11週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第12週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第13週 2000m計測
- 第14週 各種球技
- 第15週 各種球技

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（実技）（つづき）	平成22年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種目におけるルール・特性を理解し、積極的に授業に取り組むことができる。</li> <li>2. 安全に留意し、マナーを重んじ礼儀正しい態度で練習やゲームに参加することができる。</li> <li>3. スポーツテストにより自分の体力を把握し、運動能力の向上に努めることができる。</li> <li>4. バasketボールにおいてディフェンス、オフェンスの基本的な動きができる。</li> <li>5. バasketボールにおいてシュートの基本動作ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 水泳において基本的な泳力を身につけている。</li> <li>7. 走高跳、100走により自分の能力を把握し、成長に伴う運動能力の向上に努めることができる。</li> <li>8. サッカーにおいて自分たちで試合運営ができる。</li> <li>9. 長距離走において必要な持久力を鍛え、完走できる。</li> <li>10. 卓球において、ダブルスのルールを把握し、協力して試合ができる。</li> <li>11. 体育祭などにおいて日頃の努力を発揮し、結果を残すことができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>バasketボール、サッカー、卓球のルールの理解が確実で、身につけた様々な技術を練習・試合の場で積極的に発揮してスポーツを楽しむことができ、また併せて水泳、高跳、100m走、長距離走により基礎体力を身につけている。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～11の確認を授業時間内において行う。  「知識・能力」の重みに関しては、授業機会の多い4・5・6・7・10を重視するが、他はおおむね均等とする。  武道・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実技の説明をよく聞き、また準備体操をしっかりと行うことにより、不注意による事故やけがを未然に防ぐようにする。</li> <li>2. 授業種目に応じて学校指定の衣類（ジャージ、運動靴、体育館シューズ、水着など）を着用すること。</li> <li>3. 授業終了後は速やかに更衣し、次の授業に遅れないようにすること。</li> <li>4. けがや、体調不良によりやむなく見学する場合も自分が手伝えること（タイムの計測、準備、後かたづけ等）を見つけて積極的に授業に参加する。（原則として見学者も指定のジャージに着替える事が望ましい）</li> <li>5. 天候によって内容と時間配分が変わります。（雨天時はバasketボールなど球技を行います）</li> <li>6. 1コマの中で保健と実技を行うので、実技に費やす時間は1回あたり55分程度です。  但し、水泳等は保健なしで実技を行う場合があります。</li> </ol>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>各スポーツの基本的なルールを覚えておくことが望ましい</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>骨折や入院等で長期間欠席や見学をした場合のみレポートを提出する。</p>	
<p>教科書：特になし  参考書：アクティブスポーツ（大修館書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>バasketボールはドリブルシュート、水泳・100m・走高跳・長距離走は記録、卓球はリーグ戦成績で評価するが、保健体育全体の評価としては、保健理論25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価する。その中には平常の実技に取り組む姿勢・意欲等も含む。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記の評価方法により60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（武道・剣道）	平成22年度	細野 信幸	1	通年	履修単位4（2）	必

[授業のねらい]

「剣道」は古来より「礼に始まり、礼に終わる」と言われるように常に礼を尊び厳格な礼儀作法で行われてきたことから、現代、礼儀を重んじる態度を育成するのに特に効果的である。剣道を通じて武道の精神を理解し、楽しく取り組める剣道の指導に心がけたい。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 剣道の意義と特性（安全上の諸注意）
- 第2週 授業（剣道）目標（ねらい）
- 第3週 授業内容と方法
- 第4週 授業内容と方法
- 第5週 剣道用具とその取り扱い方法及び作法
- 第6週 竹刀について
- 第7週 防具の着け方（垂・胴・面・小手）
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 礼の仕方（坐礼・立礼）
- 第10週 竹刀の下げ方と中段の構え方
- 第11週 修練及び試合における始めと終わりの作法
- 第12週 構えについて（姿勢・竹刀の保持）
- 第13週 構えの解説（五行の構えについて）
- 第14週 体さばきの実際（足運びの練習）
- 第15週 打撃の基礎修練法（素振り）

後期

- 第1週 稽古方法とその心得（健康と安全）
- 第2週 基本打突の実際（基本打突について）
- 第3週 各部位の打突について（打ち方・受け方）
- 第4週 気・剣・体一致の打突について
- 第5週 有効打突を判断する要素
- 第6週 応じ技・鏝迫り合い・体当たり
- 第7週 稽古の心得
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 試合に臨む心得
- 第10週 試合規則の説明と実践
- 第11週 試合規則並びに審判規則の理解
- 第12週 校内武道大会
- 第13週 試合規則の習得と実践
- 第14週 試合規則の習得と実践
- 第15週 授業の総括（反省と今後の課題）

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（剣道）（つづき）	平成22年度	細野 信幸	1	通年	履修単位4（2）	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 剣道の意義と特性を理解し、積極的に声を出し授業に取り込むことができる。</li> <li>2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。</li> <li>3. 剣道用具（防具・竹刀・剣道着・袴）の着装に対する理解と、正しく取り扱うことができる。</li> <li>4. 竹刀の名称の理解と、正しく組み立てることができる。</li> <li>5. 礼に対する理解と、正しく行動ができる。</li> <li>6. 構えに対する理解と、実際に正しく構えることができる。</li> <li>7. 体さばきの理解と、正しく行動ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 稽古方法に対する理解と行動ができる。</li> <li>9. 基本的な打ち方（竹刀操作）の心得と説明ができる。</li> <li>10. 気・剣・体一致の理解と打突ができる。</li> <li>11. 間合いについての理解と行動ができる。</li> <li>12. 技に対する実際と、内容を理解している。</li> <li>13. 稽古に対する心構えと試合に対する心得を理解している。</li> <li>14. 試合及び審判規則の理解ができる。</li> <li>15. 校内武道大会で日頃修練した技を発揮し悔いのない試合ができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>武道（剣道）の精神を理解し、礼儀作法を身に付け剣道用具を正しく取り扱うことができ、剣道のルール、体さばきや竹刀の振り方などの基本となる技術を習得している。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～15の確認を授業時間内に行う。また、授業において基本となる技術の習得を確認するための簡単な実技テストも行う。「知識・能力」の重みに関しては、武道の基本となる3.9.の項目を重視するが、他は概ね均等とする。体育実技・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>「剣道」は竹刀を使用して打突し合う競技であるため力まかせな行為に陥りやすい。楽しく競技するためには相手の人格を尊重する態度が他のスポーツに比べ一層重要となる。竹刀で打突するため、注意していても軽い打撲はつきものであるが、竹刀の破損による事故は競技者にとって致命傷になりかねない。したがって、授業中何度も竹刀のチェックをし、安全管理に心がけるようにすること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>入学後ごく簡単な基礎的知識を習得する段階から入るので、頑張る気持ちさえあれば問題はない。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>改めてレポート等の提出を求めることはないが、初めて経験する授業と思われるので、できればその日に学んだことをノート等に記録しておくと思われ。</p>	
<p>教科書：</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ（内訳は武道（剣道）5割，体育実技・保健5割），この授業で習得する知識・能力の達成度を評価する。ただし、100点のうち技能以外に個人が実施する実技に対して積極的に活動できているか否かに対する評価を20点程度含むものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>実技科目なので技術の修得が第一条件ですが、学習への取り組む姿勢も含め評価し、60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（武道・柔道）	平成22年度	前川 忠秀	1	通年	履修単位4（2）	必

[授業のねらい]

「柔道」の基本動作の反復練習により、自己の能力にあった得意技を体得させ、相手の動きや技に応じた攻防を工夫し、お互いに協力、教えあいなどにより自主的・意欲的に練習が出来るようにする。また、練習・試合を通じてお互いに相手を尊重し、礼儀正しい態度を養う。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第15週までの内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する

前期

- 第1週 柔道の知識（歴史、意義と練習の目的、練習の目的、授業の内容）
- 第2週 柔道衣の取り扱い方（着方、たたみ方）礼法
- 第3週 後受身（単独、2人一組による）
- 第4週 横受身（単独、2人一組による）
- 第5週 前受身、前回り受身
- 第6週 姿勢（自然体、自護体）組み方、歩き方
- 第7週 崩し、力の用法、作りと掛け、体さばき
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 投げ技について（禁止事項、練習の仕方）
- 第10週 膝車（掛け、横受身、相対動作による受身と掛け）
- 第11週 大腰（掛け、横受身、相対動作による受身と掛け）
- 第12週 相対動作による受身、掛け（確認）
- 第13週 固め技の基本（特色、練習の仕方、禁止事項）
- 第14週 本袈裟固（基本と応じ方）
- 第15週 崩袈裟固（基本〈5種類〉と応じ方）

後期

- 第1週 横四方固（基本と応じ方）
- 第2週 崩上四方固（基本と応じ方）
- 第3週 抑え技の攻め方について（四つんばいの体勢→頭部から攻めて抑える。）
- 第4週 抑え技の攻め方について（横向きの体勢→体側、背面から攻めて抑える。）
- 第5週 上四方固（基本と応じ方）
- 第6週 肩固（基本と応じ方）
- 第7週 得意技の習得（反復打込、乱取）
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 得意技の連絡変化（得意技→他の技）「例：袈裟固め→横四方固め」
- 第10週 審判規程の説明、試合における礼法、試合練習
- 第11週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第12週 校内武道大会
- 第13週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第14週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第15週 授業の総括（反省と今後の課題）

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（柔道）（つづき）	平成22年度	前川 忠秀	1	通年	履修単位4（2）	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 柔道の知識を理解し、積極的に授業に取り込むことができる。</li> <li>2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。</li> <li>3. 柔道衣の取り扱いの理解と、正しく着装ができる。</li> <li>4. 受け身の名称の理解と大切さ、そして正しく行動ができる。</li> <li>5. 基本的な姿勢（組み方、歩き方）に対する理解と行動ができる。</li> <li>6. 投げ技に対する（禁止事項、練習の仕方）理解と、心構えができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. 練習方法に対する理解と行動ができる。</li> <li>8. 基本的な抑え技の心得と説明ができる。</li> <li>9. 抑え技の理解と合理的な行動ができる。</li> <li>10. 抑え技の連絡と変化を理解することができる。</li> <li>11. 練習に対する心構えと試合に対する心得が理解できる。</li> <li>12. 試合に臨む心得・及び審判規則が理解できる。</li> <li>13. 校内武道大会で日頃修練した技を發揮し悔いのない試合ができる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>柔道の知識・規則を理解し、受身・投げ技・抑え技などの基本となる技術を正確に体得し、様々な技の特性を理解し自己の能力にあった得意技を反復練習により身に付け、練習・試合の中で実行することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～13の確認を授業時間内に行う。「知識・能力」の重みに関しては、安全な授業進行のため4. 6. 9. 10.の項目を重視するが、他は概ね均等とする。体育実技・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>柔道衣の安全や清潔を確かめ、禁止技を用いないなど、健康や安全に配慮して練習を行うこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>柔道の基礎的知識から指導するので特に必要なし。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>改めてレポート等の提出を求めることはないが、初めて経験する授業と思われるので、できればその日に学んだことをノート等に記録しておくと思われ。</p>	
<p>教科書：</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ（内訳は武道（柔道）5割、体育実技・保健5割）、この授業で習得する知識・能力の達成度を評価する。ただし、100点のうち技能以外に個人が実施する実技に対して積極的に活動できているか否かに対する評価を20点程度含むものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>実技科目なので技術の修得が第一条件ですが、学習への取り組む姿勢も含め評価し、60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
美術	平成22年度	浅井 清貴	1	通年	履修単位2	選

[授業のねらい]

芸術とは、毎日の暮らしの中で運命に流されている自分を止め、自らに問いかけ、生まれ、老い、死んでいくかけがえのない人生を慈しみ、明日のエネルギーを汲み出し、自己を変革する行為である。美術はそのために必要な創造力と感性を養い、発想を豊かにし「美しく生きるとは何か」を考え形にする。又情操教育の一環として情緒を確立する。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標（A）の〈視野〉に対応する。

前期	後期
1 美術史（講義）	5 風景画（制作）
第 1 週 芸術とは何か	第 1 週 自然に学ぶ(校内写生)
第 2 週 人類は何故描くのか	第 2 週 〃
第 3 週 画家の誕生と天才たちの饗宴	第 3 週 〃
第 4 週 モダンアートと印象派	6 コンテンポラリーアート
2 コラボレーションアート（講義）	第 4 週 現代美術(抽象画の制作)
第 5 週 今、なぜ芸術福祉か	第 5 週 〃
第 6 週 障害者のアート	7 環境芸術
3 静物画（制作）	第 6 週 アルテポーベラ
第 7 週 不自由体験(利き腕以外での制作)	第 7 週 リサイクルアート
第 8 週 〃	第 8 週 〃
第 9 週 〃	8 仮面舞踏会
4 アニメーション	第 9 週 舞台美術(面を作り面で舞う)
第10週 CG. 動画的表現の説明	第10週 〃
第11週 オリジナルキャラクターの制作	第11週 〃
第12週 動画の制作	9 メディアアート
第13週 動画イラストの制作	第12週 舞踏パフォーマンス
第14週 〃	第13週 〃
第15週 〃	10 生活環境とデザイン
	第14週 未来の夢デザイン
	第15週 〃

(次ページにつづく)

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
美術（つづき）	平成22年度	浅井 清貴	1	通年	履修単位2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術史を理解している.</li> <li>2. 障害者芸術の魅力を理解している.</li> <li>3. 不自由な制作を体験している.</li> <li>4. ビジュアルラングエッジを理解し、アートの感性を高める.</li> <li>5. 泰西名画に学び、鑑賞能力がある.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 多様な現代の美術を理解している.</li> <li>7. 自然を見つめ自然に学ぶことができる.</li> <li>8. CG.アニメ・動画的表現ができる.</li> <li>9. 近未来のアートを表現することができる.</li> <li>10. 未来への創造的思考能力を発揮することができる.</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>美術史を総合的に理解し、加えて現代社会を生きていく上での創造力をそなえ、未来の創造を考えることができる.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～10を網羅した問題を2回の定期試験と8つの制作作品を課し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験・制作を課す。</p>
<p>[注意事項] 芸術意味をよく理解し、各々の制作課題と真剣に取り組む態度が必要である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 特になし。</p>	
<p>[レポート等] 長期休暇中の課題としてテーマを決めた絵画、ポスター等、制作途中作品の完成を課す場合がある。</p>	
<p>教科書： 「高校美術1」長井一正・他著（日文），「美術Ⅲ」野田弘志・他著（光村図書）          参考書： 「西洋美術史」高階秀爾著（美術出版社），「芸術と美学」R. シュタイナー著（平河出版社）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>期末の試験結果の平均値を20%，8点の制作課題（パフォーマンス含む）による採点を80%とする。再試験は行わない。          [単位修得要件] 与えられた制作課題を提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
音楽	平成22年度	阿部 浩子	1	通年	履修単位 2	選択

[授業のねらい]

歌唱指導により、より良い発声と、歌詞の内容をよく把握してより良い表現をできるようにし、バロックから近代の音楽の歴史と作曲家、作風を理解する。

[授業の内容]

前期

- 第 1 週 教科書の内容紹介, 1年間の授業の流れ
- 第 2 週 歌唱指導, 発声について, 正しい姿勢と腹式呼吸について, 西洋音楽史の流れについて
- 第 3 週 歌唱[おおシャンゼリゼ]バロック音楽について
- 第 4 週 歌唱[翼を下さい] ヘンデル「ハーブ協奏曲」作曲家, 作品を解説, CD鑑賞后感想文提出
- 第 5 週 「ホール・ニュー・ワールド」Bach[トッカーターとフーガ]
- 第 6 週 「Yesterday」古典派の音楽
- 第 7 週 [Sound of Music] モーツァルトについて  
Sym. 40
- 第 8 週 「カントリー・ロード」Beethoven Sym9
- 第 9 週 Musical について[Sound of Music]内容紹介,  
Video 鑑賞
- 第 10 週 Video 鑑賞[Sound of Music]
- 第 11 週 Video 鑑賞[Sound of Music] 感想文提出
- 第 12 週 「野ばら」, ロマン派の音楽
- 第 13 週 「世界にひとつだけの花」Schubert「魔王, 野ばら,  
ます他」
- 第 14 週 「未来へ」 ショパン作曲「子犬のワルツ, 革命,  
英雄ポロネーズ」他
- 第 15 週 オペレッタの解説  
J. シュトラウス I 世、II 世 鑑賞感想文

後期

- 第 1 週 歌唱「赤とんぼ」, 交響詩R. シュトラウス交響詩「ツァラツストラかく語りき」
- 第 2 週 「トゥナイト」, プッチーニ オペラ「蝶々夫人」の解説
- 第 3 週 Video 鑑賞 オペラ「蝶々夫人」
- 第 4 週 Video 鑑賞 オペラ「蝶々夫人」感想文
- 第 5 週 「星に願いを」, ラフマニノフ「ピアノ協奏曲 2」
- 第 6 週 「待ちぼうけ」, 近代の音楽について
- 第 7 週 「White Christmas」, ドビッシュー「夢・月の光・沈める寺」
- 第 8 週 「メモリー」, ラヴェル「夜のガスパール」
- 第 9 週 「一晩中踊れたら」, ガーシュイン「ラブソディー インブルー」
- 第 10 週 「早春賦」, 西洋音楽史の流れについて「まとめ」
- 第 11 週 「美女と野獣」 ギター名曲集「アランフェス協奏曲」
- 第 12 週 「アニー・ローリー」, J. ウィリアムズ「スターウォーズ」組曲
- 第 13 週 1年間勉強した歌の総練習
- 第 14 週 歌唱テスト
- 第 15 週 Video 鑑賞  
「マイ フェア レディー」感想文

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
音楽（つづき）	平成22年度	阿部 浩子	1	通年	履修単位 2	選択

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発声についてよく理解し積極的に声を出せる。</li> <li>2. リズミカルな曲の楽しさを表現して歌える。</li> <li>3. 歌詞の内容をよく理解し表現豊かに歌える。</li> <li>4. バロック、古典派、前期ロマン派の西洋音楽史の流れを把握し、理解している。</li> <li>5. 各時代の時代背景、音楽的内容について理解している。</li> <li>6. 各時代の作曲者について理解している。（Bach, Haendel, Mozart, Beethoven, Schubert, Chopin）他</li> <li>7. 各時代の作品について理解している。</li> <li>8. ミュージカルについて理解している。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 交響詩の形態について理解している。</li> <li>10. オペラについて理解している。</li> <li>11. 後期ロマン派、近代の音楽について流れを把握し理解している。</li> <li>12. 時代背景、音楽的内容について理解している。</li> <li>13. 作曲者について理解している。（R. ショトラウス、プッチーニ、ラフマニノフ、ドビュッシー、ラヴェル）</li> <li>14. 作品について把握している。</li> <li>15. 正しい発声に基づいて、リズム音程を把握した上で、歌詞の内容をよく理解し、表現豊かに歌える。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>西洋音楽史のバロックから近代までの流れを把握し、作曲家とその作品を理解し、また歌の内容をよく考えそれを表現して歌える。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～15の確認を、2回の定期試験と歌の実技テスト、CDやビデオの鑑賞の感想文提出、ノート提出により行う。合計点の60%の得点で目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 歌唱にあたっては、姿勢を正しくし横隔膜を下げ、お腹を膨らますようにして息を吸い込み、横隔膜や腹筋で支えて声を出す。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学修了程度</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>感想文の提出を求める。</p>	
<p>教科書：高校の音楽1，改訂新版 山本文茂ほか5名著 音楽の友社 参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>2回の期末試験結果の平均値50%，実技テスト，鑑賞の感想，ノート50%で評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題レポートを提出し，学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
書道	平成22年度	樋口弓弦	1	通年	履修単位2	選

[授業のねらい]

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書道芸術に対する理解を深め、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標（A）の<視野>に対応する。

前期後期を通じて、授業開始15分間ペン習字を取り入れる。

前期

- 第1週 ガイダンス 道具について
- 第2週 書写と書道
- 第3週 楷書の学習 中国・唐代の書家について
- 第4週 楷書 九成宮醴泉銘
- 第5週 楷書 九成宮醴泉銘
- 第6週 楷書 孔子廟堂碑
- 第7週 楷書 孔子廟堂碑
- 第8週 楷書 雁塔聖教序
- 第9週 楷書 雁塔聖教序
- 第10週 楷書 牛橛造像記
- 第11週 楷書 牛橛造像記
- 第12週 楷書 建中告身帖
- 第13週 楷書 建中告身帖
- 第14週 楷書創作学習
- 第15週 楷書創作学習

後期

- 第1週 行書の学習 東晋の「蘭亭序」（王羲之）について
- 第2週 臨書 蘭亭序 2文字
- 第3週 臨書 蘭亭序 4文字
- 第4週 臨書 蘭亭序 5文字
- 第5週 行書の学習 平安の「風信帖」（空海）について
- 第6週 臨書 風信帖 2文字
- 第7週 臨書 風信帖 4文字
- 第8週 臨書 風信帖 5文字
- 第9週 行書の創作学習
- 第10週 行書の創作学習
- 第11週 年賀状製作
- 第12週 仮名文字の学習
- 第13週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第14週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第15週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
書道（つづき）	平成22年度	樋口弓弦	1	通年	履修単位2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 楷書の学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 楷書の成立と基本用筆について理解している。</li> <li>2 臨書を通し古典の特徴や書風を理解している。</li> <li>3 創作により、古典の書風と自己の個性を調和させ表現できる。</li> </ol> <p>2. 行書の学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 行書の成立と基本用筆について理解し、楷書との違いを理解している。</li> <li>2 蘭亭序の臨書を通じて、字体の持つ流動美を把握し、作者王羲之の感性に触れることができる。</li> <li>3 風信帖の臨書を通じて、空海が中国から学んだ王羲之と顔真卿の行書が和風として確立した事を理解している。</li> </ol>	<p>2. 漢字仮名交じり書（調和体）の学習</p> <p>自分の好きな言葉を、漢字と仮名の調和を大切にしながら&lt;私らしく&gt;表現し、作品制作できる。</p> <p>4. ペン習字</p> <p>日々の実用書体として、基本点画をしっかり練習し、文字の筆順の原則、結構の原理に基づいて書くことができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>楷書、行書、漢字仮名交じり（調和体）の書及び、ペン習字について、理論的実技的に特徴を理解し、習得している。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～4の確認を、前期後期の2回の期末試験と授業中の実技試験で行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で目標達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>古今の名跡に接し鑑賞することは“目習い”と言い、視覚的感受性によってその作品を深く味わうこと。</p> <p>臨書は古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を観て真似て書くこと。創作はそこから感じる各々の個性を取り入れながら作品を作り出すこと。一件単純な作業の繰り返しだが、コツコツと学習し努力する姿勢を忘れず、授業に取り組んで欲しい。</p> <p>最初の授業に中学校まで使用していた書道用具を持参すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で培われてきた書写力</p>	
<p>[レポート等]</p>	
<p>教科書：「高校書道Ⅰ」（教育出版）</p> <p>参考書：「高校硬筆の練習」小竹光夫ほか2名著（教育出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>年2回の期末試験結果を30%、提出作品、学習への取り組み姿勢等を70%として、それぞれの期間毎総合的に評価し、これらの平均値を最終評価とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を修得すること。</p>	